

平成 31(令和元)年度 学校経営報告

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>1 学習指導</p> <p>ア スモールステップを活用して自己効力感を養い、「自発学習」する生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習到達目標を明確にし、小さな達成感を積み重ねて自己肯定感を育む。 ・毎回の小テストや自宅学習の工夫で「自発学習」を習慣づける。 ・基礎力診断テスト結果を活用し、外部模試も積極的に受験させる。 ・補講等を活用して、検定試験や模擬試験等の受験を積極的に奨励する。 <p>イ 長期休業日中にも学習指導を切らさない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定対策講座等を実施し、生徒の検定合格と学力向上を目指す。 ・社会体験実習を推進し、マイレージに加える。 ・「みのりゼミ」などを充実させ、ワンランク上の学習活動を構築する。 <p>ウ 授業の質を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動(話す、聞く、読む、書く)を導入し、生徒を積極的に授業に参加させる。 ・ICT機器を使った授業の工夫・改善を推進する。 ・アクティブ・ラーニング推進校としての成果を活用し「考える」授業を推進する。 ・研究授業を励行し、授業改善に資する。 ・オンライン英会話を試行し、4技能の着実な定着を推進する。 	<p>学習内容が理解できているか、問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」が76%であった。</p> <p>解ったと感じる場面があるか、問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」が82%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部模試も受験者が増加し、意欲が向上している。基礎力診断テストは更に分析する必要あり。 ・検定対策講座を適宜実施し、英検では2級6名、準2級 15 名が合格した。模試受験者数は倍増した。 ・再掲 ・社会体験実習開催数は昨年度同様であった。 ・みのりゼミや長期休業中の補習は、昨年度と比較してやや減少した。進学志望の増加に伴い、次年度は活性化するように努める。 <p>教材の工夫など解り易い授業か、問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」が81%であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークなど多様な形態を取り入れた学習指導が行われるようになった。 ・殆どの学習でなんらかの ICT 機器が使用されている。次年度はBYODの促進に取り組む。 ・アクティビティとしての整えはほぼできるようになった。探究への導きが課題である。 ・研究授業はまだ十分広がっていない。 ・オンライン英会話は、着実に取り組み事業継承を図っている。 	<p>4</p>
<p>2 進路指導</p> <p>ア 組織的なキャリア教育を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から卒業年次までの一貫したキャリア教育を確立する。 ・個々の生徒に対応できるシステムを模索する。 	<p>卒業生 177 名。進路決定率は 74. 5%であった。</p> <p>大学 51 名、短大 7 名、専門学校 51 名、就職 18 名、その他であった。</p>	<p>5</p>

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>イ キャリア教育を通して「社会的な自立」を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次のキャリア教育により、社会の中での自他の肯定感を高めるとともに、ピアサポート（仲間同士の支え合い）による学校生活への定着と、コミュニケーション能力の向上を推進する。 2年次以降のキャリア教育では、自己の社会的役割に気付かせ、進路意識を高める。また、卒業年次のキャリア教育では、進路実現と社会的自立を図る。 <p>ウ 「社会的な自立」を実現する指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> マイレージを活用して、ボランティア活動やインターンシップ、上級学校訪問等に積極的に参加させる。 ハローワークや若者サポートステーション等の外部機関と積極的に連携する。 自立のための社会性やマナーを育成する指導を推進する。 <p>3-1 生徒指導（学校生活）</p> <p>「他人のチャレンジを邪魔しない」を合言葉に、全教職員で組織的な生活指導を推進する。</p> <p>ア 安心安全な学校を創るとともに、いじめや体罰を根絶する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命と人権を尊重させ、自他のチャレンジを尊重する態度の育成。 <p>イ 落ち着いた学校生活をおくらせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ノーチャイム制により、スケジュール管理の能力を身に付ける。 全校で「笑顔で挨拶」を励行する。 校服の正しい着用（特にスカート丈）と身だしなみ指導の推進。 <p>ウ きれいな学校環境を守る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内清掃を徹底し、ゴミ分別活動を推進する。 <p>エ 文化祭、みのり杯、進路体験行事を充実させる。</p> <p>オ 生徒の自主性を育てる HR 活動や生徒会活動を推進させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育は教育課程の再編を見越して、調整が必要である。 卒業を希望した生徒の90%が卒業した。 コーピングを軸にした取組を丁寧に実施してきた。心理的に不安定な生徒に対する指導の充実が課題である。 卒業生による講演を実施するとともに、個々の教員によるアドバイスによって、進路に向けた意識が向上しつつある。 卒業率を向上させることが必要不可欠である。 ボランティアは地域から深く感謝されるとともに、本校の一つの特長となりつつある。 <p>練馬サポステが文化祭でブース参加するなど連携は深まっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導やマナー指導の水準は維持できているが、徹底をしていくことが不可欠である。 	4
	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を守らない生徒への指導があるか、問に対して「あてあまる」「ややあてはまる」が80%。 「自他のチャレンジを尊重する」を絶えず伝え、指導を繰り返して生徒に浸透させてきた。 遅刻は、1日あたり2.1人で、努力の様がみられる。 挨拶はするようになってきているが、まだ十分とはいえない。 校服の着こなしは、ほぼできている。 校内美化は定期的な清掃活動を含め、できているものの、自らゴミを拾う生徒の育成に努める。 文化祭、みのり杯に「役割を果たし、意欲的に参加できた」と回答はそれぞれ71%と79%で昨年度と同水準。 生徒会の自主性を育てるため、自販機問題などを示唆して、活性化に努めた。 	

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>カ 部活動の活性化により、課題解決能力とコミュニケーション能力を身に付けさせる。</p> <p>ク オリピック・パラリンピック教育を通じ、国際理解や異文化理解について取り組み・継続していく。</p> <p>3-2 生徒指導（特別活動・部活動）</p> <p>ア みのり杯、稔祭等の学校行事を充実する。</p> <p>イ 生徒の自主性を育てる生徒会活動を充実する。</p> <p>ウ 生徒の個性を引き出す部活動を活性化する。</p> <p>エ 生徒の生活集団の形勢を促す。</p>	<p>・部活動の参加率は45%だが、都大会や全国大会に参加する団体が増加した。</p> <p>・パワーアップハイスクールに指定され、演武や講演会を開催し、身体を動かすことの大切さを学んだ。</p> <p>ア 昨年に引き続き全日での実施を企画したが悪天候で後半は開催できなかった。</p> <p>イ・ウ生徒会・部活動については既出。</p> <p>エ 文化祭等実行委員会の育成を図った。</p> <p>稔ヶ丘高に誇りをもっている、と回答した生徒の率は57%で向上が課題である。</p>	
<p>4 防災教育</p> <p>ア 災害に備えた校内体制を整える。（学校安全・防災対策委員会）</p> <p>イ 震災を想定した防災訓練及び備蓄を実施する。</p> <p>ウ 地域の防災訓練に積極的に協力する。</p>	<p>ア 夜間における避難訓練を実施し、照明や器具の備え付けが課題であることを把握した。</p> <p>イ 備蓄倉庫の点検を随時実施した。</p> <p>ウ 地域防災訓練を企画したが年度末のウイルス対策で未実施に終わった。</p>	4
<p>5 保健指導（心と体の健康づくり）</p> <p>ア カウンセリング委員会を中心に種々の相談機能（スクールカウンセラー、自立支援チーム、みのりの場、スクールソーシャルワーカー等）を向上させる。</p> <p>イ 情報交換会における生徒情報を活かし、特別支援教育コーディネーターを中心に配慮を要する生徒の支援の立案を行う。</p> <p>ウ いじめの未然防止と早期発見に努める。</p> <p>エ スポーツの楽しさと健康管理の大切さを知る機会を設ける。</p>	<p>ア 令和二年度より教育相談部を設立し、外部専門家等を管掌させる。</p> <p>イ 個々のケースごとに対応したが、いまだ組織的対応には至っていない。</p> <p>ウ いじめ対策委員会は一例を認定し対応した。</p> <p>エ 保健室への頻回来室者が減少した。</p>	4
<p>6 募集・広報活動</p> <p>ア 個別相談、各種説明会を通して受検生や保護者、中学校、適応指導教室等への学校理解を深める。</p> <p>イ 入学者選抜の結果を分析し、今後の改善に活用する。</p> <p>ウ Web ページを充実させ、中学校や適応指導教</p>	<p>ア 学校説明会の参加者は1000名を超えた。区市の適応教室には直接訪問して、紹介を行った。</p> <p>イ 「説明と入学後の様子が同じか」問に対して生徒の62%が同意している。</p> <p>ウ HP を随時更新した。とくに年度末のウイルス</p>	3

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>室等に情報を発信し、募集・広報活動の改善・工夫する。</p>	<p>感染対応では情報や取り組むべき課題を随時掲載して情報発信に努めた。</p>	
<p>7 地域交流、保護者</p> <p>ア 幼稚園や小・中学校、特別支援学校、町会、社会福祉協議会等、地域の関係機関との連携を強化する。</p> <p>イ ボランティア教育推進校として、生徒のボランティア活動を奨励し、地域との交流活動をより一層推進する。</p> <p>ウ 「みのり保護者の会」及び「卒業生の会」の組織化に協力し、連携を図る。</p>	<p>ア 地域で開催される行事や会合には必ず出席した。</p> <p>イ 上鷲祭り等の地域のイベントにボランティア活動として生徒が参加するよう努めた。</p> <p>ウ 保護者の会等と連携し、昨年度と同様の取組を行ったが連携の方法を再調整する必要がある。</p>	4
<p>8 経営企画室</p> <p>ア 教員との連携を強化し、経営参画型の企画室を構築する。</p> <p>イ 効率的な予算執行を通して、学校経営計画を具現化する。</p> <p>ウ 都民の教育ニーズを的確に把握して、行政的視点から学校経営に反映する。</p> <p>エ 利用者（生徒）の視点に立った改修工事を実施する。</p>	<p>ア 企画室と教員との連絡体制には大きな課題はなかった。</p> <p>イ 予算執行では計画的な実施ができ、センター執行率などを達成した。</p> <p>ウ 地域住民からの要望など、スピードと解決策の費用対効果を心がけて対応した。</p> <p>エ テニスコートやトイレの改修など、未着手だった部分の対処ができた。</p>	4
<p>9 環境整備担当</p> <p>ア 清潔で安全な学校環境を維持整備する。</p> <p>イ ゴみの分別指導や共通部分の清掃を徹底する。</p> <p>ウ 修理・修繕を迅速に手配し、円滑な教育活動の推進に寄与する。</p>	<p>ア 美化委員と清掃員との連携で環境が保てている。ごみの分別は生徒と教員の90%ができていると回答。</p> <p>ウ 修繕等の対応は迅速にできた。</p>	4
<p>10 図書室</p> <p>ア 生徒の「読みたい」「知りたい」読書環境を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自発学習・自発読書環境を整備する。 ・開館時間の拡充等により、利用率を向上させる。 ・スポーツ関係の図書を充実させ、オリンピック・パラリンピック教育を推進する。 <p>イ 英語多読ルーム、多読コーナーを充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語における自発学習環境を整備する。 	<p>ア とくに一学期中は、授業で図書館を活用するなどの試みがなされた。今後は、読書購入と教育活動との連動を見直す予定。</p> <p>イ 英語の多読は来年度、力を入れていく。</p>	3

次年度の課題

- 1 授業や学校行事の工夫・改善を通じて、生徒の授業出席率の向上を図る。
 - ・79.7%であった授業出席率を80%台後半に向上させる。
- 2 都教育委員会のALCLコミュニティの指定を受けたことから、各教科・科目の見方や考え方を追究する授業の実践を継続する。また、英語教育を中心にグローバル教育を推進する。
- 3 ワンランク上の教材を用いる「みのりゼミ」や「勉強合宿」を継続・拡大し、生徒の多様な教育ニーズに呼応する。
- 4 生徒の自尊感情や自己肯定感について、調査研究を行う。その取組を踏まえ、授業を含めた教育活動で生徒の自己肯定感の向上を図るよう企画する。
- 5 生徒の興味・関心や進路に応じた、新たな自由選択科目の設置について検討する。
- 6 都教育委員会のボランティア活動推進校の指定を踏まえ、マイレージに対応したさらなるボランティア活動の拡充を図る。
- 7 Ⅲ部の増学級に対応し、Ⅲ部生の教育選択に柔軟な対応をとる。
 - ・1時限目から授業選択を可能にするなど幅広い選択を可能にしていく。
 - ・転部を含めた教育の機会見直し等を検討していく。
- 8 今後の生徒の定員増に備え、施設・設備を整備・充実させるとともに、校内の生徒の居場所づくりを推進する。
 - ・HR教室がないことから、授業の空き時間等の生徒の居場所づくりが引き続き急務である。
- 9 心と体の健康管理について、カウンセリング委員会を中心に情報共有化を進める。
 - ・教育相談部を新たに設け、外部専門家との連携や専門性の確保に努め、困難事例の解決にあたる。
 - ・みのりの場の運用について再検討し、生徒の幅広い相談に応じるよう試みる。
- 10 引き続き中途退学者を減らし、卒業者を増やしていく。
 - ・目標 中退率 5%未満、卒業者 毎年180人
 - ・ピアサポート（生徒同士の支え合い）の導入により、中退率を減少させる。
 - ・社会体験活動による単位認定（マイレージ）の積極的な運用により、単位修得の機会を増やす。
- 11 アクティブ・ラーニングをはじめ、喫緊の教育課題に関係する校内研修を充実させ、本校のグランドデザインに基づき、生徒の実態に応じた柔軟な教育が継続的に行われるようにする。
- 12 災害対策として、夜間を含めた対策など、地域と連携した取組を行っていく。